



事業報告書 2022

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」

南近畿から広がる 新しい未来への扉

■ 連携機関



積水ハウス株式会社

事業実施責任者 ごあいさつ

大阪公立大学、大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社は、2017 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に選定されました。本事業の実施にあたり、代表機関である大阪公立大学と、共同実施機関である大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社は、「連携機関長会議」及び「連携機関連絡会議」を通じて連携し、ダイバーシティ研究環境整備、女性研究者の研究力向上・リーダー育成、女性研究者の上位職登用促進に取り組んでまいりました。また、本事業のかたわら準備を進めてきた南近畿女性研究者ネットワークが2020 年9 月より本格的に活動を開始し、女性研究者の共同研究の拡大や国際的なリーダー育成を図る「南近畿圏共同研究プラットフォーム」が構築されました。さらに、2021 年8 月には大阪商工会議所が上記共同研究の実施機関に参画いただいたことで、事業の推進にも一層の弾みがつきました。

事業6 年目の集大成にあたる2022 年度は、中心的な取り組みである女性研究者の共同研究を促進するため、「連携型共同研究助成」に注力しました。積水ハウス株式会社との共同研究プロジェクト「産学官連携ウィメンズユニット」では、今年度も引き続き「住まいにおける子どものオンライン学習に関する研究」の研究を続けています。また、南近畿圏の共同研究の拡大への基盤形成を目指した「南近畿圏共同研究プラットフォーム構築」により女性研究者の活躍促進が軌道に乗り、外部資金獲得セミナーや英語プレゼンテーションセミナー（今年度もオンラインで開催）を通じ、女性研究者の研究力やスキルアップを図ってまいりました。3 月にはダイバーシティ研究環境実現総括シンポジウム「ボーダーを越えて、女性研究者の未来を拓く PART.Ⅲ」をウェビナー開催し、本補助事業の国際アドバイザーであるウィスコンシン大学マディソン校准副学長の Amy Wendt 先生をお招きして「ウィスコンシン大学マディソン校における教員のダイバーシティとインクルージョン：WISELI の取組」についてご講演いただきました。女性研究者の採用・在職者比率の上昇、上位職への一層の登用促進の参考になるような海外の好事例の紹介を受け、これを分析して南近畿の産学官連携および国際連携を進めていく所存です。

南近畿圏に拠点を持つ多様な機関が連携して取り組む本事業が、周辺機関にプラスの波及効果をもたらしつつ、発展拡大していくことができますよう、今後とも皆様の一層のご支援とご協力を賜りたく存じますのでよろしくお願い申し上げます。

2023 年3 月
大阪公立大学（代表機関）
副学長

金澤 真理

※なお、当初補助事業に採択された大阪市立大学は、2022 年度4 月に大阪府立大学との統合により大阪公立大学として開学いたしました。

目 次

事業実施責任者　ごあいさつ	1
I 事業概要	3
II ダイバーシティ研究環境整備	5
連携機関長会議と連携機関連絡会議 南近畿女性研究者支援ネットワーク 研究支援員制度 保育サポート事業 介護相談窓口 総合相談窓口 女性研究者ネットワークシステム 広報・啓発活動	
III 女性研究者の研究力向上・リーダー育成	9
連携型共同研究助成 「産学官連携ウィメンズユニット」による共同研究プロジェクト 研究発表交流会 キャリア研修・研究力向上セミナー 女性研究者メンタープログラム 女性研究者外国語論文校閲・翻訳費助成事業 企業インターンシップ 研究施設の共同利用	
IV 女性研究者の上位職登用促進	14
2022 年度ダイバーシティ研究環境実現　総括シンポジウム 女性管理職育成のためのキャリア研修／管理職研修 プロモーションメンタープログラム クロスアポイントメント制度	
V 各連携機関のその他の取り組み	18
大阪公立大学 大阪教育大学 和歌山大学 積水ハウス株式会社	
VI 主な取り組み一覧	26

I

事業概要

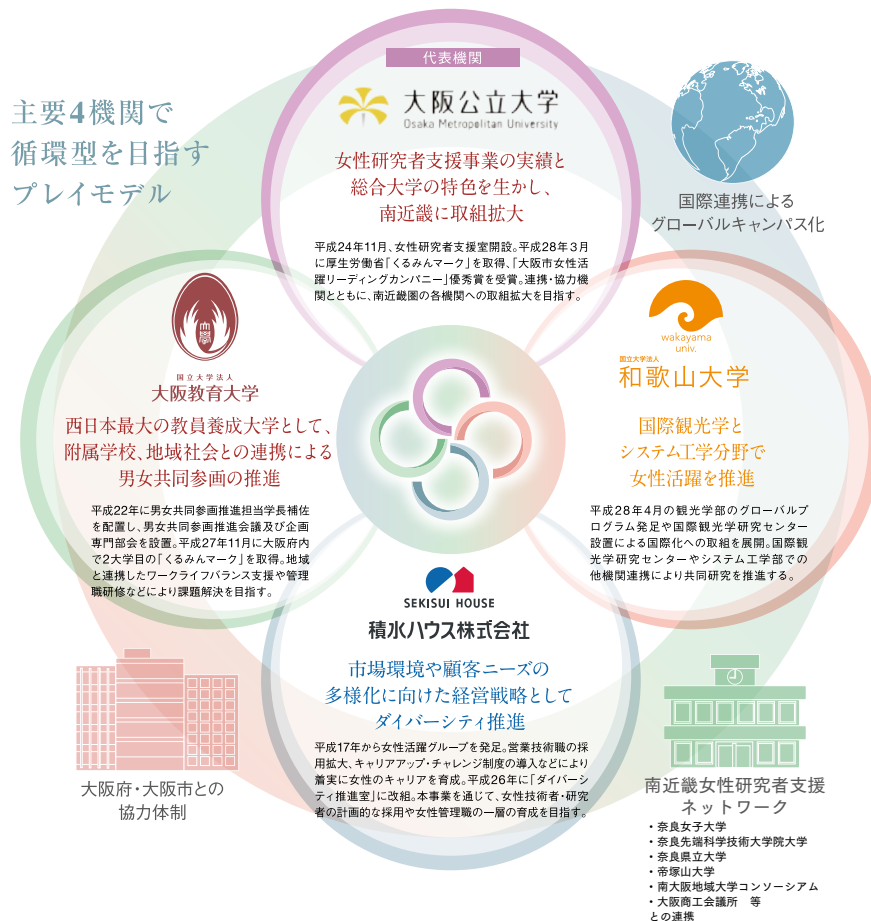
本事業は、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、次の3つの取り組み1) 女性研究者のライフイベントやワーク・ライフ・バランスに配慮したダイバーシティ研究環境整備、2) 女性研究者の研究力向上・リーダー育成、3) 女性研究者の積極採用や上位職登用促進を中心に実施します。「牽引型」は、大学や研究機関が企業等と連携し、連携する各機関をはじめ、その他の機関を含めた地域や分野における女性研究者の活躍促進を牽引する取り組みを行います。事業期間は、2017～2022年度の6年間です。

代表機関の大阪公立大学は、都市型総合大学としての総合力と特色（生活科学研究科の存在など）を生かし、産学官連携による女性研究者のキャリア形成と人材交流を促進するとともに、国際的有力大学との連携を通じてグローバルキャンパス化を図り、女性研究者の活躍促進、国際的なリーダー育成を目指した「南近畿圏共同研究プラットフォーム」構築を進めます。

共同実施機関である積水ハウス株式会社は、「住」を基軸としたさまざまな研究開発を行っており、多様な感性が求められる住まいづくりにおいて、女性が活躍できるよう具体的な方針・推進体制を定め、実行しています。

大阪教育大学や和歌山大学との事業の共同実施を通じて、本事業は南近畿の企業や研究機関へと連携を拡大します。

【連携体制】



【連携機関】

- | | |
|---|---|
| ☐ 大阪公立大学 女性研究者支援室 | : https://www.omu.ac.jp/r-support/ |
| ☐ 大阪教育大学 ダイバーシティ推進会議 | : https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/other /diversity/ |
| ☐ 和歌山大学 男女共同参画推進室 | : http://www.wakayama-u.ac.jp/equal/ |
| ☐ 積水ハウス株式会社 ダイバーシティ推進部 | : https://www.sekisuihouse.co.jp/company/diversity/ |

【3つの取り組み】

1. ダイバーシティ研究環境整備

- ☐研究支援員制度
- ☐保育サポーター養成研修
- ☐保育サポート事業（保育利用料補助事業）
- ☐介護相談窓口の開設
- ☐総合相談窓口

2. 女性研究者の研究力向上・リーダー育成

- ☐連携型共同研究助成事業
- ☐「産学官連携ウィメンズユニット」による共同研究プロジェクト
- ☐キャリア形成・研究力向上セミナーの実施
- ☐女性研究者メンタープログラムの実施

3. 女性研究者の上位職登用促進

- ☐国際シンポジウムの実施
- ☐女性管理職育成のためのキャリア研修・管理職研修の実施
- ☐プロモーションメンタープログラムの実施
- ☐クロスアポイントメント制度
- ☐管理職の人事交流の実施

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

ホームページ <https://diversity-oows.jp/>

【連携機関長会議と連携機関連絡会議】

本事業を連携機関が協働して実施するために、昨年度に引き続き「連携機関長会議」及び「連携機関連絡会議」を実施しました。「連携機関長会議」では、連携機関の機関長が事業の進捗状況を共有し、数値目標達成や事業の課題について協議しました。「連携機関連絡会議」では、本事業の実施責任者等が具体的な事業計画の立案や進捗管理を行いました。

【南近畿女性研究者支援ネットワーク】

本ネットワークは「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」選定を契機に、南近畿を中心に大学等の研究機関や企業が連携し、当該地域の女性研究者の研究活動支援や育成・裾野拡大を推進することを目的として2019年12月に発足しました。女性研究者の研究活動支援に資する研究環境や人材育成等について、課題共有と解決に向けた情報・意見交換を行います。あわせて、構成機関等が実施する関連事業について情報提供や相互参加を行い、南近畿内のネットワーク形成の強化を目指して活動しています。

参画機関

国立大学	大阪教育大学、和歌山大学、奈良女子大学 奈良先端科学技術大学院大学
公立大学	大阪公立大学、奈良県立大学
私立大学	帝塚山大学、畿央大学
企業	積水ハウス株式会社
特定非営利活動法人	南大阪地域大学コンソーシアム
地域総合経済団体	大阪商工会議所

※下記行事は、4連携機関主催行事を除く。

■ 2022年7月27日（水） 第3回 南近畿女性研究者支援ネットワーク会議開催

オンライン開催

南近畿女性研究者支援ネットワーク参画機関が一堂に会し、意見交換を行いました。

昨年8月から大阪商工会議所が加盟し、産学連携を一層進めています。

■ 2022年11月4日（金）奈良先端科学技術大学院大学主催 CDG & 男女共同参画室 共同企画セミナーシリーズ「ジェンダーがわかると科学は広がる！」（全4回）

講師：高松 香奈 氏（国際基督教大）他

■ 2022年11月16日（水）サクヤヒメと語るキラリカフェ

オンライン開催

「働くって、どんな風に？」

大阪商工会議所、大阪サクヤヒメSDGs研究会、大阪公立大学は「働くって、どんな風に？」と題し、女性がイキイキ働くためのヒントをさぐる2部制のオンライン参加型トークイベントを開催しました。女子学生の質問に対して、企業リーダー・大学教職員が多様な経験を基に回答することで、学生・大学教職員双方に気づきの多いイベントとなりました。



■ 2022 年 12 月 14 日（水） 奈良女子大学 令和 4 年度「知る・学ぶ・伝える equality」連続講座（全 2 回）

オンライン・オンデマンド開催

「男女共同参画は何を変えるか？」

講師：上野千鶴子（社会学者・東京大学名誉教授

認定 NPO 法人ウィメンズアクション（WAN）理事長）

「ジェンダー平等～男性からの視点」

講師：伊藤公雄（京都産業大学現代社会学部客員教授・ダイバーシティ推進室長

京都大学・大阪大学名誉教授）

【研究支援員制度】

研究支援員制度は、出産・育児・介護を抱える研究者の研究支援のために、研究支援員（学生・院生・卒業生他）を配置する制度です。研究支援員は、研究者の監督・指示のもと支援業務を行います。研究支援員の登録対象者は、大阪公立大学、大阪教育大学、羽衣国際大学、奈良先端科学技術大学院大学に所属する研究者、学域・学部生、大学院生、卒業生、その他の登録希望者です。

登録後、大阪公立大学が研究支援員登録者の希望条件に応じたマッチングを行います。

また、和歌山大学においても独自の研究支援員制度を実施しています。

大阪公立大学では申請対象を専任教員は、男女とも同じ条件としました。また、養育する子供の年齢もこれまでの小学校 3 年生以下から小学校 6 年生以下に拡大しました。申請内容と面談により審査点数を算出し、人件費の傾斜配分を行い、個々の利用教員に人件費を予算振替する方法に変更しました。



【研究支援員制度の利用者数】

2022 年度	研究支援員利用者	研究支援員
大阪公立大学	69 名	94 名
大阪教育大学	5 名	5 名
和歌山大学	1 名	2 名

【保育サポート事業】

大阪公立大学では、研究者の研究活動と家庭生活の両立支援のため、2015 年より独自の保育サポート事業（夜間・休日保育、病児・病後児保育、学童保育利用料補助事業）を実施しています。大阪教育大学も 2019 年 10 月から保育サポート事業を開始しました。

2022 年度	利用者	件数
大阪公立大学	13 名	45 件
大阪教育大学	3 名	8 件

【介護相談窓口】

介護相談窓口は、連携機関の女性研究者・ポスドク・院生等を対象に、①介護問題解決のための具体的な手立てや専門知識の提供、②学外の地域包括支援セミナーや行政窓口等の紹介・連携、③相談員の育成を目的として開設しています。介護ハンドブック解説動画「介護で仕事をあきらめないための介護と仕事の両立とは？」【基礎編】【応用編】【認知症編】3本のYouTube映像の公開を継続しました。介護ハンドブック、介護と仕事の両立Q & A、介護への備えワークシートのホームページ上への掲載を継続しました。また、在宅介護での感染対策や在宅介護の継続の対策や注意点等を5つのポイントにまとめた資料「新型コロナウイルス感染症対策～介護と仕事の両立～」、介護のケア役割を学生に関するリポート「ヤングケアラーの現状と課題」をホームページに掲載を継続しました。相談機会の間口を広げるべく、対面、Zoom、電話、メールと多様な形での相談対応を継続実施しました。「介護通信」を毎月1回発行し、ホームページ等で周知しました。

相談件数：16件



■介護支援セミナー「いつか始まる介護について今、必要なこと！」

2022年11月9日（水）

オンライン開催

参加：48名

講師：湯浅 美佐子（大阪公立大学女性研究者支援室 介護アドバイザー）

「介護相談窓口」では、介護に備えるための心構えや、介護と仕事の両立に役立つ様々な情報を発信しています。今年度は「いつか始まる介護について今、必要なこと！」と題し、昨年度に引き続き介護支援セミナーを開催しました。講師には、大阪公立大学女性研究者支援室介護アドバイザーである、湯浅美佐子氏を迎え、気軽に参加いただける、ランチタイムの時間帯に行いました。将来誰にでも起こりえる介護への備えについて簡潔にわかりやすく、介護保険制度の基礎知識や、実際に介護相談窓口にあった相談事例などを共有しました。大阪公立大学女性研究者支援室ホームページからダウンロードできる「介護への備えワークシート」の活用の仕方も紹介しました。今後とも定期的な開催をしてほしい、今から備えておけることを前もって準備または検討しておくことの重要性に気づけた等、参加者からも好意的な評価をいただくと同時に、介護相談窓口が大学内に設置してあるといざというときに頼る場所がある安心感につながる、もっと周知に努めてほしいといった意見もみられました。

「介護で仕事をあきらめないための介護と仕事の両立とは？」解説動画



■ダイバーシティ研修

2022年8月8日(月)、12月2日(金)

オンライン開催

参加：142名、135名

講師：湯浅 美佐子(大阪公立大学女性研究者支援室 介護アドバイザー)

積水ハウス株式会社の社内セミナーとして、大阪公立大学に共同開設している介護相談窓口担当の介護アドバイザー、湯浅美佐子氏を講師にお招きし、仕事と介護の両立セミナーシリーズ「介護に関するお金の話 在宅介護費用について」、「介護に関するお金の話 高額介護サービス等、負担軽減制度について」を開催しました。気軽に多くの従業員が参加できるよう、お昼休みに昼食をとりながら参加できるランチセッションスタイルでの開催としました。

【総合相談窓口】

大阪公立大学では、女性教員・研究員・大学院生のライフイベント、人間関係やキャリア形成、心身の不調や変化等、さまざまな悩みに応じて学内外の専門機関を紹介しています。

相談件数：5件

【女性研究者ネットワークシステム】

2013年度より、大阪公立大学では女性研究者支援ネットワークシステムを開発・運営し、大阪教育大学、羽衣国際大学、奈良先端科学技術大学院大学と共同利用しています。

【広報・啓発活動】

2017年度に開設した本事業のホームページ<<https://diversity-oows.jp/>>を引き続き運用し、事業の周知・広報を推進しました。本ホームページでは、連携型共同研究の研究内容や、連携機関で開催されるイベントの紹介、介護相談窓口通信の発行などを行っています。冊子では、ニュースレター vol.11、12を発行しました。





女性研究者の研究力向上・リーダー育成

【連携型共同研究助成】

連携機関（大阪公立大学、大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社）に所属する女性研究者を研究代表者とし、2連携機関以上の研究者による共同研究に対して研究費の助成を行う事業です。本年度から帝塚山大学も共同研究機関として参加しました。実施要領に基づいて連携機関が共同で審査し、下記18件の研究課題を採択しました。

大阪公立大学…9件 大阪教育大学…5件 和歌山大学…2件 積水ハウス株式会社…1件 帝塚山大学…1件

2022年度 連携型共同研究採択一覧

【大阪公立大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
岩崎 昌子 理学研究科 准教授	機械学習を用いた物理学実験シミュレーターの基礎開発	深澤 優子 大阪教育大学 教育学部 准教授 住瀬 水季 岐阜大学 教育学部 准教授／大阪大学 核物理研究センター 特任准教授 谷口 七重 高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 助教
藤井 律子 人工光合成研究センター 准教授	光の波長に応答した光合成アンテナ超複合体の形成挙動の解明	荒木 良一 和歌山大学 教育学部 准教授 竹田 恵美 大阪公立大学 理学研究科 准教授
三枝 栄子 理学研究科 講師	高いエネルギー効率を可能にする発光性ランタノイド錯体の合成	林 聡子 和歌山大学 システム工学部 准教授
出口 美輪子 生活科学研究科 特任助教	パラアスリートへのオーダーメイド型栄養サポートを可能にするエネルギー消費量の推定方法の確立	横山 久代 大阪公立大学都市健康・スポーツ研究センター 教授 本宮 暢子 大阪公立大学 生活科学研究科 特任教授 山崎 祐子 大阪公立大学 医学研究科 講師 鉄口 宗弘 大阪教育大学 教育学部 教授
小関 珠音 都市経営研究科 准教授	工業地域の再生と「豊穡化の経済」一場所の記憶、ツーリズム、コミュニティ、エコシステム	藤田 和史 和歌山大学 経済学部 准教授 立見 淳哉 大阪公立大学 経営学研究科 教授
吉田 朋子 人工光合成研究センター 教授	XAFS 測定システムの構築と反応中の人工光合成光触媒その場分析	矢嶋 摂子 和歌山大学 システム工学部 教授 門 晋平 和歌山大学 システム工学部 助教
福村 智恵 生活科学研究科 准教授	地域連携食育ネットワークにおける ICT を活用した児童生徒の食育プログラムの実施と評価	早見 直美 大阪公立大学 生活科学研究科 講師 西川 章江 大阪教育大学 教育学部 准教授 横山 久代 大阪公立大学 都市健康・スポーツ研究センター 教授 鵜川 重和 大阪公立大学 生活科学研究科 准教授
玉城 明子 文学研究科 特任講師	すべての子どもの学力保障に向けての方策—大阪の同和教育・人権教育の実践資料分析を通して—	佐久間 敦史 大阪教育大学 地域連携・教育推進センター 准教授 齋藤 直子 大阪教育大学 地域連携・教育推進センター 特任准教授
菅原 真弓 文学研究科 教授	阪和地域の「文化資源」発掘と検証、記録に関する研究	木川 剛志 和歌山大学 観光学部 教授 増田 聡 大阪公立大学 文学研究科 教授

【大阪教育大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
岡崎 純子 教育学部 教授	島嶼における訪花昆虫相シフトは蜜分泌特性の分化をもたらすのか；形態変異と蜜分泌の相対成長解明	名波 哲 大阪公立大学 理学研究科 准教授
西川 章江 教育学部 准教授	外国人留学生向け日本文化体験プログラムの支援活動を通じた大学生の生活文化理解に関する研究	碓田 智子 大阪教育大学 教育学部 教授 米澤 千昌 大阪教育大学 教育学部 特任講師 小池 志保子 大阪公立大学 生活科学研究科 准教授
田中 真秀 連合教職実践研究科 准教授	コロナ禍のカリキュラムマネジメントにおける学校の個性とそれを支える教育委員会の指導・助言・援助	田村 知子 大阪教育大学 連合教職実践研究科 教授 田中 満公子 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 岡田 和子 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 佃 千春 大阪教育大学 学務部教務課 特命職員 木原 俊行 大阪教育大学 連合教職実践研究科 教授 陸奥田 維彦 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 島田 希 大阪公立大学 文学研究科 准教授
出野 文莉 教育学部 准教授	中国の筆法から学ぶ書写・書道教材開発の試み	大岩本 幸次 大阪公立大学 文学研究科 教授
渡邊 美香 教育学部 准教授	ウェブ教材を用いた美術教育実践データの収集と検証—美術鑑賞活動の行動観記録をもとにした経験の共有を中心に—	青木 宏子 大阪教育大学 教育学部 非常勤講師 高橋 暁生 積水ハウス株式会社 ESG 経営推進本部 美術館事業室 絹谷幸二天空美術館研究員 加藤 可奈衛 大阪教育大学 教育学部 教授

【和歌山大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
秋元 郁子 システム工学部 准教授	半導体結晶にトラップされた電子・正孔スピンの空間分布解析	松岡 秀人 大阪公立大学 理学研究科／研究基盤共用センター 特任准教授
上野 智子 教育学部 准教授	特別支援学校音楽科における「即興表現」のための教材開発：音楽に付随するエンカレッジな機能に着目して	菅 道子 和歌山大学 教育学部 教授 山崎 由可里 和歌山大学 教育学部 教授 沼田 里衣 大阪公立大学 文学研究科 准教授

【積水ハウス株式会社】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
山崎 美波 住生活研究所 社員	住まいにおける子どものオンライン学習に関する研究	杉田 菜穂 大阪公立大学 経済学研究科 教授 木野村 昭彦 積水ハウス株式会社 住生活研究所 スペシャリスト 秋山 寿美江 積水ハウス株式会社 住生活研究所 スペシャリスト 服部 正子 積水ハウス株式会社 住生活研究所 スペシャリスト 津江 大志 積水ハウス株式会社 住生活研究所 社員 国吉 真夕 積水ハウス株式会社 住生活研究所 社員

【帝塚山大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
辻川 ひとみ 現代生活学部 教授	保育施設の室内環境に関する研究 —線路沿いに立地する保育施設の事例—	鍋島 美奈子 大阪公立大学 工学研究科 教授 西村 真実 帝塚山大学 教育学部 准教授 木村 均 帝塚山大学 現代生活学部 准教授 吉住 優子 帝塚山大学 現代生活学部 研究員

【「産学官連携ウィメンズユニット」による共同研究プロジェクト】

2020年度、大阪公立大学と積水ハウス株式会社住生活研究所による4年間に渡る共同研究プロジェクト「近居する子育て中の親世帯と子世帯のライフスタイル」に関する研究を終了し、2021年度からは、新たな体制による「住まいにおける子どものオンライン学習に関する研究」を開始しています。本年度も昨年度の研究を継続し、研究内容についてのワーキングをオンラインで16回、社員を対象としたヒアリング調査やパネルを活用したWebアンケート調査など合わせて7回、また日本建築学会での発表も1件実施しました。



【研究発表交流会】

■第6回女性研究者研究発表交流会

2022年12月2日（金）

オンライン開催

参加：50名

1 対談

「女性研究者のキャリアデザインについて～自分らしさを発揮しながら、キャリアとライフを充実させる働き方～」

同志社大学 学長 植木 朝子

積水ハウス株式会社 執行役員 住生活研究所長 河崎 由美子

2 産学官連携ウィメンズユニット（WUSO）研究発表

「住まいにおける子どものオンライン学習に関する研究」

大阪公立大学 経済学研究科 教授 杉田 菜穂

積水ハウス株式会社 住生活研究所 山崎 美波

3 パネルディスカッション

「産学官連携の経験を活かした 研究者のキャリアアップ」

モデレーター：杉田 菜穂

パネリスト：田中 真秀（大阪教育大学 高度教職開発系 准教授）

林 聡子（和歌山大学 システム工学部 准教授）
室崎 千重（奈良女子大学 生活環境学部 住環境学科 准教授）
服部 正子（積水ハウス株式会社 住生活研究所 スペシャリスト）

女性研究者が集い、学び、情報交換する「第6回 女性研究者 研究発表交流発表会」を開催しました。第1部では「女性研究者のキャリアデザインについて～自分らしさを発揮しながら、キャリアとライフを充実させる働き方～」と題し、同志社大学 学長 植木朝子氏、積水ハウス株式会社 執行役員 住生活研究所長 河崎由美子氏が対談を行いました。第2部では、産官学連携ウィメンズユニット（WUSO）研究発表として、大阪公立大学 経済学研究科 教授 杉田葉穂氏、積水ハウス株式会社 住生活研究所 山崎美波氏による「住まいにおける子どものオンライン学習に関する研究」を発表しました。

第3部のパネルディスカッションでは、モデレーターとして杉田葉穂氏、パネリストとして田中真秀氏（大阪教育大学 高度教職開発系 准教授）、林聡子氏（和歌山大学 システム工学部 准教授）、室崎千重氏（奈良女子大学 生活環境学部 住環境学科 准教授）服部正子氏（積水ハウス株式会社 住生活研究所 スペシャリスト）を迎え、「産官学連携の経験を活かした研究者のキャリアアップ」をテーマに活発な意見交換が行われました。

【キャリア形成・研究力向上セミナー】

■研究力向上のための外部資金獲得セミナー

2022年7月5日（水）
オンライン開催
参加：71名
講師：中安 豪（ロバスト・ジャパン株式会社 理学博士）

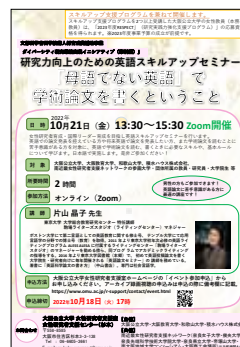
女性研究者の研究力向上を目指し、外部資金（科研費）獲得に向けたセミナーを行いました。本年度も Zoom にて開催しました。講師には今年度もロバスト・ジャパン株式会社を迎え、より具体的な研究計画調書作成に関するレクチャーを受けました。加えて、良い事例、悪い事例を踏まえ、文系理系それぞれに適した建設的な戦略の立て方など、獲得を見越した実践的なワークに取り組みました。また、個別支援として、ロバスト・ジャパン株式会社によるオンライン面談を実施しました。

■英語スキルアップセミナー

2022年10月21日（金）
オンライン開催
参加：109名
講師：片山 晶子（東京大学 大学総合教育研究センター 特任講師）
駒場ライタースタジオ（ライティングセンター）マネジャー）

女性研究者の研究力向上を目指し、英語スキルアップセミナーを開催しました。Zoom にて開催し、合計 100 名以上の方が受講しました。講師には東京大学 大学総合教育研究センター 特任講師 片山晶子氏を迎え、「母語でな

い英語」で学術論文を書くことをテーマに、苦手意識が先行しがちな英語での論文執筆作業のハードルを低く捉える考え方、科学論文を書くときに必要となるスキル等についてレクチャーを受けました。昨今注目されている、翻訳機能との付き合い方にも触れました。講義の中では練習問題もあり、参加者に回答を求める場面も多く、オンラインセミナーながら、参加型の講義となりました。事後アンケートでは、大変充実したものであったとのコメントが目立ちました。



【女性研究者メンタープログラム】

「女性研究者メンタープログラム」とは、連携機関に所属する女性研究者（メンティ）が、知識や経験の豊かな指導者・助言者（メンター）から研究生活全般やキャリア形成等に関する支援・助言を受けられる体制を作り、問題解決のサポートを行うものです。メンティはキャリア意識の醸成、研究力やリーダーシップ育成、ライフイベントとの両立等の悩みや課題を相談することができます。さまざまな研究分野と多様な人材を有する連携機関が共同してメンタープログラムを実施することによって、メンティとメンターのマッチングを推進し、女性研究者ネットワークの構築につなげます。

・大阪公立大学 3件

【女性研究者外国語論文校閲・翻訳費助成事業】

女性研究者のキャリアアップには外国語論文の作成が必須となっています。女性研究者の国際的リーダー育成を目的に、研究スキルアップにつながる外国語論文校閲・翻訳に係る費用を支援しました。

2022年度	助成期間	助成額	採用件数
大阪公立大学	2022年4月1日～2023年2月末	上限2万円（税込み）	4件
大阪教育大学	2022年5月1日～2023年3月末	上限5万円（税込み）	1件
和歌山大学	2022年4月1日～2023年2月末	上限5万円（税込み）	2件

【企業インターシップ】

学生や博士研究員のキャリア形成や多様な進路選択を可能にするため、例年、連携機関（大学）からポスドクや大学院生を積水ハウス株式会社へインターシップ派遣しています。派遣された学生は、先進的な企業の支援制度や研究環境に触れることで、多様な視座を得て研究意欲を喚起されます。

【研究施設の共同利用】

2016年度から文部科学省補助事業「共同利用・共同研究拠点」の認定を受けた大阪公立大学人工光合成研究センター等と連携し、連携機関の女性研究者に対して積極的な研究施設（研究室、実験室、研究交流スペース、会議室等）の利用の促進を行っています。

IV

女性研究者の上位職登用促進

【2022 年度ダイバーシティ研究環境実現 総括シンポジウム】

2023 年 3 月 7 日（火）

オンライン開催

参加：181 名

「南近畿から世界へ：ボーダーを越えて、女性研究者の未来を拓く PART Ⅲ」

大阪公立大学・大阪教育大学・和歌山大学・積水ハウス株式会社は、2017 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に選定され、最終年度である 6 年目を迎えました。2020 年度には「南近畿女性研究者支援ネットワーク」が本格始動し、2021 年度には大阪商工会議所が参画し、ネットワークを広げてまいりました。本シンポジウムは最終年度の集大成とし、事業の成果を報告するとともに、ウィスコンシン大学マディソン校副学長をお招きし、国内・国外のゲストによる先進的事例の報告から示唆を得て、さらに取り組みを進展させることを目的として開催しました。

初めに、大阪公立大学 辰巳砂昌弘学長より開会の挨拶がありました。引き続き、文部科学省 科学技術・学術政策局人事政策課 人材政策推進室 岡貴子氏、本補助事業の外部評価委員である伊藤真里氏（医薬基盤・健康・栄養研究所 上席研究員）、本奈美氏（大阪商工会議所 人材開発部 研修・採用支援担当課長）よりお言葉をいただきました。

第 1 部は基調講演として、本補助事業の国際アドバイザーであるウィスコンシン大学マディソン校副学長の Amy Wendt 氏をお招きして、「ウィスコンシン大学マディソン校における教員のダイバーシティとインクルージョン: WISELI の取組」と題して、基調講演をいただきました。Wendt 氏による本補助事業の取り組みへの評価や、WISELI で長年行っている「採用ワークショップ」の取り組みとその効果、国内外への波及について述べました。また、同じく WISELI 独自の取り組みである「バイアスの習慣を断ち切るワークショップ」についても説明がありました。Women から Inclusion へとさらにダイバーシティ環境を整えるべく、より包括的な取り組みを始めている WISELI の取り組みを通じて、海外の先進的事例を共有しました。



次いで、金澤真理氏（大阪公立大学副学長（ダイバーシティ担当）より、ネットワーク活動が従前必ずしも盛んでなかった南近畿地域で連携型共同研究を実施し、研究環境を整備するとともに研究力向上をはかるという本補助事業の特色について報告がありました。実際、この6年間の間に、連携機関、及び他の機関も加わった「南近畿女性研究者支援ネットワーク」を基軸に女性研究者の国際的リーダー育成に繋がるような共同研究の基盤を根づかせたこと、連携機関と共同し性別を問わず利用可能な介護相談窓口等を新設して産学連携の強みを生かした研究環境を整備したことを報告し、連携型共同研究助成事業が女性研究者の業績向上を促進する一定の成果に繋がったことが明らかにしました。



第2部では、研究報告「グローバルな連携推進」として、「産学官連携研究の現状と展望」と題し、河崎由美子氏（積水ハウス株式会社 執行役員 住生活研究所担当）より、共同研究報告として、大阪公立大学、積水ハウス株式会社の産学官連携ウィメンズユニット（WUSO）での研究成果を紹介しました。産学官連携研究の展望として4つのポイントを挙げ、新しい知見創出、人材育成、新しい提案、情報発信が重要だと述べました。次に、「大学におけるジェンダー公正の取組～海外の先進事例から～」と題し、西岡英子氏（大阪公立大学 女性研究者支援センター プログラムディレクター・特任准教授）より、多様な人材確保のための人事選考ワークショップの事例や、公正な人事選考を行うためのガイドブックの紹介など、人事プロセスにおけるバイアスを最小限にし、組織文化と考え方の変化を促すことの重要性について報告がありました。



第3部のパネルディスカッションでは、「大学・企業の特徴を生かした DEI 戦略とは？」というテーマで、第1部で講演された Amy Wendt 氏、永井由美子氏（大阪教育大学 学長補佐（ダイバーシティ推進担当）、金川めぐみ氏（和歌山大学 学長補佐、男女共同参画推進室長）、河崎由美子氏、真嶋由紀恵氏（大阪公立大学 特命副学長、女性研究者支援室長）をパネリストに迎え、金澤真理氏司会のもと、意見交換を行いました。まず初めに各機関の補助事業期間中の成果と今後の取り組みについて各連携機関がそれぞれ発表しました。永井氏より、補助事業期間中に女性学長が就任したこと、文部科学省より教員養成フラッグシップ大学に指定され、ダイバーシティ

教育をベースに、授業のシラバスにダイバーシティの観点に配慮した授業づくりを目指す旨を明記していることなどを紹介しました。金川氏より、来年度より4学部のうち2学部において学部長に女性が就任する予定であり、またダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン推進本部（DEI）を設置し、男女共同参画、ソーシャルインクルージョン、健康支援、障害学生支援の総合的なダイバーシティの推進体制を整え、さらに進歩をとげていく予定であると述べました。

質疑では、視聴者の方からも多くの質問が寄せられましたが、その一つ「女性の活躍推進を図るためになにが一番効果的であったか」に対し、Wendt氏が「ひとつの目標を達成しようとする、それを達成するために、様々な側面において解消しなければならない問題があることがみえてくる。そのひとつひとつを解決しようとする道のは長いが、連携機関同士、お互いに問題点について観察し、解決策について好事例を紹介しあい、未来に向かってここまで培ってきた連携を引き続き生かしていくことが重要であり、補助事業を終えたあとも変わらない活動が続けることが望ましい」と総括され、多様な取り組みを共同して息長く続けることの大切さを確認する大変良い機会となりました。



【女性管理職育成のためのキャリア研修／管理職研修】

女性研究者自らの上位職登用に関する意識啓発、また管理職を対象とした女性研究者の積極登用や管理職育成を目的とした意識改革を醸成するための研修を実施しました。

■役員向けアンコンシャス・バイアス研修

2022年10月26日（水）大阪公立大学
2023年2月3日（金）～2月28日（火）大阪教育大学
2023年3月23日（木）和歌山大学
オンデマンド開催
参加：7名（大阪公立大学）
6名（和歌山大学）
対象：33名（大阪教育大学）

タイトル：「Fix the Women から Fix the System へ
－無意識のバイアスと大学の未来－」

内 容：米国科学財団における女性研究者支援事業の流れ、無意識のバイアスの発見、無意識のバイアスの事例・状況、多様な人材を確保するための人事選考のあり方・好事例、日本の新しい流れを創るトップのリーダーシップ

研究機関や組織において、多様性を尊重し、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）を克服することで、多様な人材としての個々の能力を最大限に発揮できるような職場環境づくりが求められています。「無意識のバイアスと大学の未来」をテーマに、意識改革を阻む偏見に気づき、ダイバーシティに配慮し、ジェンダー平等を実現する取り組みを役員から率先して進めていただくことを目的として研修を開催しました。

大阪公立大学では、役員を対象にオンデマンドで研修を実施しました。和歌山大学では、役員を対象にオンデマンドで実施したほか、男女共同参画推進室会議にて、参加者全員で研修コンテンツを視聴し意見交換を行いました。また、全教職員に対してもオンデマンド研修を実施し、アンコンシャス・バイアスについての気づきや理解を深める取り組みを行っています。



【プロモーションメンタープログラム】

上位職の女性研究者を育成するため、上位職をメンターとする「プロモーションメンタープログラム」制度を導入しています。メンティとして選出した女性准教授に対して、メンターである副学長・学長補佐や部局長によるメンタリングを行っています。2022年度には、大阪公立大学は女性准教授4名に対して、大阪教育大学、和歌山大学は女性准教授1名に対しプログラムを実施しました。

【クロスアポイントメント制度】

クロスアポイントメント制度により、2018年度に大阪大学から2名、2020年度に武庫川女子大学と日立造船株式会社、株式会社国際電気通信基礎技術研究所から各1名の女性研究者が旧大阪市立大学理学研究科と工学研究科に派遣されています。2021年度には、神戸女学院大学から工学研究科に派遣されています。

大阪教育大学において、2019年10月23日にクロスアポイントメント制度の導入を開始しました。女性研究者ではないものの、2020年度に株式会社オーグス総研から1名（特任准教授）が理数情報教育系に派遣されています。2022年度はNPO法人サイバー・キャンパス・コンソーシアム TIES から教育協働学科理数情報教育部門に派遣されています。

【大阪公立大学】

■ 2022 年度女性研究者顕彰制度「岡村賞」

2022 年 12 月 6 日（火）

2014 年度に創設した女性研究者表彰制度を継続し、優れた研究活動や教育活動及び男女共同参画推進に貢献した女性研究者 2 名を表彰しました。

■ 特別賞

大谷 直子（医学研究科 基礎医科学専攻 教授）

■ 大学院生奨励賞

仁田原 裕子（医学研究科 基礎医科学専攻 博士課程 4 年）



■ 大阪公立大学理系女子大学院生チーム IRIS（アイリス）



IRIS のロゴマーク

次世代の女性研究者・技術者を育成することを目的として結成された理系女子大学院生チーム IRIS（アイリス）は 2011 年に大阪府立大学で結成され、2022 年度から大阪公立大学に引き継がれました。IRIS は学長から任命を受けて、地域の身近な理系女性のロールモデルとして活躍し、大阪府の憲法記念日知事表彰なども受賞しています。2022 年度は理学、工学、農学、情報学、医学を研究する女子大学院生 45 名が IRIS として活動しました。

■ IRIS サイエンス・キャンパス

2022 年 9 月 10 日（土）富田林市

参加：小学生 18 名、保護者（見学）11 名

2022 年 10 月 8 日（土）和泉市

参加：小学生 9 名、保護者 9 名

2022 年 11 月 20 日（日）大東市

参加：小学生 25 名

2022 年 12 月 11 日（日）泉佐野市

参加：小学生 6 名、保護者 6 名

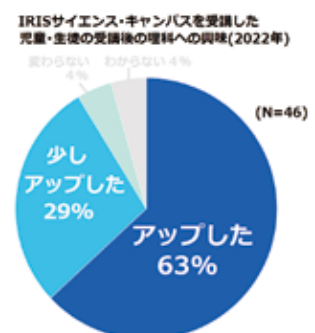


サイエンス・キャンパスの様子

IRIS は、大阪府内の小・中・高校生に科学の楽しさや面白さを広める活動を行っています。

IRIS サイエンス・キャンパスでは、大阪府内の市町村（男女共同参画推進センター、教育委員会など）や小・中学校などからの依頼を受けて実施し、科学実験の企画・運営を IRIS が主体となって行います。

2022 年度は 4 件開催し、のべ 84 名が受講しました。



■大阪公立大学オープンキャンパス 2022

【相談座談会】理系女子大学院生チーム IRIS と話そう !!

2022 年 8 月 7 日 (日) 30 分×6 回実施

参加：中高生 48 名 (中百舌鳥キャンパス)

中高生 50 名 (杉本キャンパス)

大阪公立大学のオープンキャンパスでは、IRIS 企画として中百舌鳥キャンパスと杉本キャンパスに分かれ女子中高生向けの相談座談会を実施しました。今年度は、対面での相談会と並行して、キャンパス間をオンラインで繋ぐハイブリット形式を取り入れることで、参加者が興味のある分野に所属する IRIS の話を別キャンパスからでも聞きやすい環境を提供しました。



■若手在外研究者によるポスターセッション

2023 年 1 月 26 日 (木)

参加：34 名

日本学術振興会の外国人特別研究員を中心とした、若手外国人研究者によるポスターセッションに、女性研究者支援室も参加しました。当日は女性研究者支援室の支援事業をまとめた英語版のポスターを制作し、英語による広報を実施しました。研究分野、学術的背景の違う各国からの研究者へ、女性研究者支援室の活動、また日本における女性研究者の活躍推進についての周知を行う良い機会となりました。

【大阪教育大学】

■教員養成フラッグシップ大学の指定について

2022 年 3 月、「令和の日本型学校教育」を担う教育の育成を先導し、教員養成の在り方を変革していくための牽引役として文部科学省よりにより公募された「教員養成フラッグシップ大学」の指定 4 大学の一つに選ばれました。これにより、教員養成大学として未来の教育を担う人材を育成するための環境・土台づくりを開始しています。大阪教育大学では、「ダイバーシティ」という観点をその中核に置き、学内のソフト及びハード面の整備を進めています。

【取り組み例】

- ① ダイバーシティ教育をベースに先導的・革新的な教員養成カリキュラムの開発及び専門教員を採用。関連授業については順次開講しており、令和 6 年 4 月より本格実施となる予定。
- ② 授業シラバスにダイバーシティの観点到配慮した授業づくり、授業展開の実現を目指す旨を明記。

- ③ 令和6年度天王寺キャンパスに完成を控えるフラッグシップ大学構想の拠点となる OALeC（大阪アドバンス・ラーニング・センター）内にオールジェンダートイレの設置の決定。

以上について大阪教育大学は全学を挙げて取り組み、多様な人材を活用し、学びやすい環境を整えることにより、誰もがそれぞれの個性と能力を遺憾なく発揮できる大学及び社会を醸成し、多様な教育課題の縮図ともいえる大阪から令和の日本型教育を牽引していきます。



■女性学長の就任

2022年4月、大阪教育大学創基以来初的女性学長が就任しました。これに伴い、一層のダイバーシティの取り組みを推進しています。2021年6月には、これまで学内に設置されていた学長を議長とする「男女共同参画推進会議」を「ダイバーシティ推進会議」に刷新し、これまでの取り組みから一層幅を広げ、ダイバーシティについて包括的に取り組んでいます。

■ダイバーシティ推進セミナー「グローバルな視点から見たダイバーシティ」

2022年6月29日（水）

参加：76名

大阪教育大学では、男女共同参画推進の教育・啓発活動の一環として、毎年6月男女共同参画週間に合わせて学外から講師を招いて教職員学生を対象にセミナーを実施しています。2021年6月、学内組織を「ダイバーシティ推進会議」に刷新したことにより、今年度よりセミナー名称を「ダイバーシティ推進セミナー」と変更しました。

2022年度は、京都精華大学 教授 ウスビ・サコ氏を講師にお招きし、「グローバルな視点から見たダイバーシティ」と題し講演いただきました。

講演では、サコ氏より、共同体から集合体へ社会が変化していく中、多様な人々がどのように生活を共にし、テクノロジーの発展によって人々の姿勢がどのように変わっていくのが重要であり、社会課題を解決するために「多様性」が一つの切り口になるのではないかと意見を述べられました。また、「現代の社会の変化を見据えつつ、日本社会が苦手としている異文化理解やグローバル社会の創造に何が必要なのか、アフター／ウィズコロナ時代をどう生きるか、皆さんと一緒に考えたい。」と話しました。

サコ氏がこれまでに大切にしてきた価値観は、「共生社会の実現」であり、「グローバル化」と「国際化」はイ

コールではないこと。ダイバーシティとは、違いを承認することではなく、認識することであることだと説明しました。ダイバーシティ推進では、マイノリティを優遇する政策だけでなく、マジョリティの意識改革も非常に重要であり、日本社会において、同調圧力的にマジョリティに向かう人が多い中、マイノリティ、マジョリティの無い世界をどうやってつくるのかという事がダイバーシティの大きなポイントであると述べました。

さらに、2022年3月まで京都精華大学学長を務められたサコ氏より、学長として学内のダイバーシティ推進に尽力された具体的な取り組み事例等についても紹介がありました。

事後アンケートでは、「まず多様性の存在を認識することから、認識してはじめて相手を理解することになるというのを理解させられた。」「日本人はフレーム型価値観という視点は、日本人として気づかされた部分がある。」「今後も継続してダイバーシティに関するセミナーを開催いただけるとありがたい。」との意見がありました。



【和歌山大学】

■ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン推進本部（DEI）の設置に向けて

和歌山大学では「学生、教職員の多様なニーズに応じた学内支援体制についてメンタルヘルスを含むダイバーシティ・インクルージョンの視点から構築する」を掲げ、令和5年4月から新たに「ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン推進本部（DEI）」を設置する予定です。

ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン推進本部（DEI）は、司令塔の役割を担い、その傘下に男女共同参画推進室、インクルージョン支援推進室及びビクロスカル教育機構キャンパスライフ・健康支援センターを設置し、学生、教職員の多様なニーズに応じた支援を連携しながら行います。

■女性研究者への研究費支援

女性研究者の研究力向上を促進するため、女性研究者が論文執筆した際の投稿料・掲載料の補助を実施し、1件の論文投稿に研究費を支援しました。

国際学会参加における補助については、新型コロナウイルスの感染拡大により募集を中止しておりましたが、2022年度から募集を再開しました。

また、競争的資金を配分する学内研究支援プロジェクトにおいて、「萌芽的個別研究支援」の趣旨に「特に、若手研究者及び女性研究者による研究を積極的に支援」を盛り込み、公募を行いました。

■理系女子学生支援

大学進学希望者への情報発信として、全国対象の大学進学イベントにシステム工学部における女子学生支援の取り組みを紹介するプログラムを男女共同参画推進室が出展しました。

■理系女子大学院生を対象とした奨学金

男女共同参画推進室を通じて、国際ソロプチミスト和歌山から理系女子大学院生を対象とした給付型奨学金についての案内があり、システム工学研究科大学院生が受給しました。

■女性研究者の採用

教員公募要項に男女共同参画の推進と女性の積極的な応募を歓迎の旨を記載しました。

■ダイバーシティ研究環境実現研修「DV・デートDVと大学での支援体制」

「デートDVへの予防教育の重要性——ダイバーシティの理解と絡めて」
(講師：伊田広行・DV加害者プログラム・NOVO運営者)

2022年9月6日(火)

オンライン開催 参加：93名

オンデマンド開催 参加：54名

講師に、DV加害者プログラム・NOVO(ノボ)運営者の伊田広行氏をお招きし、「デートDVへの予防教育の重要性——ダイバーシティの理解と絡めて」と題して講演いただきました。伊田先生からは、ダイバーシティ(多様性)の理解において、多数派(=普通)が少数派(=違いを持つ人)を別の「例外」として「理解」「認める」「包摂する」のではなく、「皆がそれぞれ異なっている」視点で連続的にとらえる認識や態度の変革が必要であると説明がありました。カップルだから一緒(同意)が当たり前という「スクランブルエッグ」的発想から、恋人や家族や親友でも一人一人は別々という「2つのゆで卵」という、違いを尊重するシングル単位の考え方の説明があり、多くの受講者の共感を得ていました。

その後、ニュース等では報じられることの少ない実際の被害事例の被害者と加害者の感情と行動について解説があり、参加者からは、予防教育や大学での関わり(フォロー体制)が重要だが、これをどのように取り組むかが課題との意見もあり、関心の高さを示す感想が寄せられました。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」
和歌山大学 ダイバーシティ研修
**DV・デートDVと
大学での支援体制**
2022(令和4)年
9月6日(火)
13:30-15:30
(アクセス 13:15~)
Zoomによるオンライン形式
事前申込不要 参加費無料 となたでも参加いただけます
<https://us02web.zoom.us/j/84600496456?pwd=Mm4vOHRLZnUwNmxBTTN>
●ID: 846 0049 6456 ●パスコード: 016bhW
講演 「デートDVへの予防教育の重要性——ダイバーシティの理解と絡めて」
講師 伊田 広行 氏
(DV加害者プログラム・NOVO(ノボ)運営者 立命館大学客員教授)
主催 和歌山大学 男女共同参画推進室、バラスメント防犯・防衛委員会
共催 ダイバーシティネットワーク連携機関、和歌山県立大学男女共同参画推進ネットワーク
文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)
和歌山大学 大阪公立大学 大阪教育大学 和歌山大学 福井大学

■SOGI 研修「性の多様性を考えるートランスジェンダーの立場からー」

2023年3月6日(月)

オンライン開催

参加：30名

講師 倉嶋麻理奈 (特定非営利法人チーム紀伊水道代表)

和歌山大学では、2020年12月に「和歌山大学における SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity) の多様性に関する対応ガイドライン」が策定しており、その基本方針およびガイドラインを実効性あるものとするた

めには、大学において教職員ひとりひとりが SOGI の問題について考えていく必要があると考え、和歌山県において活動を継続されている倉嶋麻理奈氏を招いて、当事者の立場から見える課題と取り組みについて講演いただきました。

倉嶋先生からは、セクシュアルマイノリティの人を包括して生きやすい社会を築く普遍的な視点と性別に対する違和感をもつ人に対しての個別的な視点が両輪となり活動していくことが大事であるというお話がありました。

参加者からは、当事者の方の体験談や具体的な話を聴き、身近にあることとして理解を深める必要があるとの感想がありました。

■小学校第1年次の「子の世話をを行うための休暇」の周知

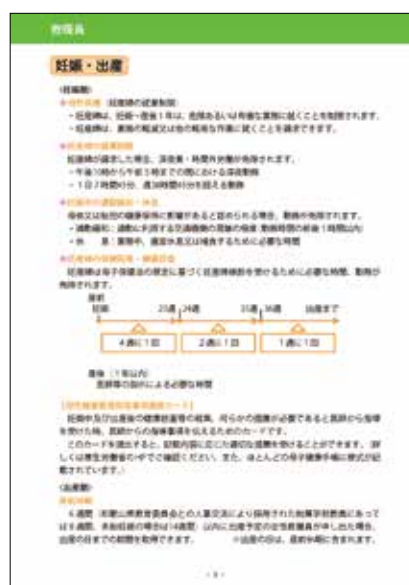
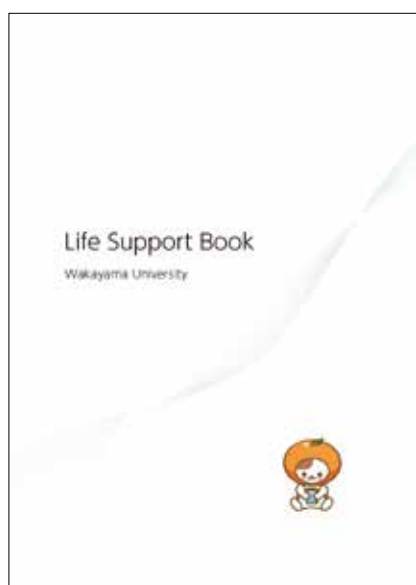
令和2年度に男女共同参画推進室が育児休業取得者へヒアリング結果を反映して新設しました。小学校第1年次の「子の世話をを行うための休暇」について、引き続き周知を行いました。また、利用状況の検証のため部局確認を実施しました。

■産前・産後休暇の取得及び介護休業に伴う代替者の措置を継続

令和2年度から改善した常勤の教職員の産前・産後休暇の取得及び介護休業を行う期間の代替者について、引き続き8時間勤務の臨時的任用による措置を可能とし、出産しやすい職場環境、介護による離職が起こらない職場環境の維持に努めました。

■教職員向けパンフレット「Life Support Book」電子版の作成

出産、育児、介護などの支援体制を記載した教職員向けパンフレット「Life Support Book」を新たに電子版で作成し、男女共同参画推進室 HP や学内共有システムへ掲載しました。より多くの教職員に支援体制を周知し、個々のワークライフ・バランス実現に向けて活用してもらうことを目的としています。



【積水ハウス株式会社】

■「ダイバーシティマネジメントフォーラム 2022」

2022 年 6 月 20 日（月）、23 日（木）

参加：1,600 名超

「イクボス※の基礎知識」について学びの機会を提供し、ダイバーシティ&インクルージョンの理解促進と「心理的安全性のある職場」の形成に繋げることを目的に開催しました。

昨今、育児に限らず介護や治療の他、家庭や個人の事情に合わせ、誰もが自律的に働き、持続的に成長できる職場形成が求められており、その職場形成は、マネージャーの存在や役割によって大きく左右されます。そこで 2015 年度より毎年開催していた「仕事と育児の両立いきいきフォーラム」（テーマ：仕事と育児の両立、対象者：育児者とその上司）を刷新、2022 年よりマネージャー向けの「ダイバーシティマネジメントフォーラム」として開催することにしました。

※イクボス＝職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランス（仕事と生活の両立）を考え、部下のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司（管理職）のこと。

■「男性育休フォーラム 2022」

2022 年 9 月 14 日（水）

積水ハウスは、よりよい社会づくりを考えるきっかけにしたいとの思いから、2018 年に 9 月 19 日を「育休を考える日」として記念日制定し、男性育休フォーラムを毎年開催し、男性育休白書※を発行しています。

2022 年 4 月には改正育児・介護休業法が施行、10 月には「産後パパ育休」が開始されるなど、男性育休取得推進の動きは一気に加速していますが、取得・実施に対して不安や課題を抱える企業や組織はまだ少なくありません。そこで、今年初の取り組みとして賛同企業を募り、男性が当たり前に育休を取得できる世の中にしていくことを目指して、81 の企業・団体とともに「育休を考える」プロジェクトを立ち上げました。男性育休に対するリアルな声を集めた動画※を作成し、TVCM や屋外広告、SNS などを通じて情報発信しました。

※積水ハウス 育休 PJT ページよりダウンロード・視聴可能 IKUKYU.PJT | 積水ハウス (sekisuihouse.co.jp)



■ダイバーシティ推進の講義を各種研修に導入

昨年に引き続き、マネジメント層を対象とした「新任リーダー研修」「リスクマネジメント研修」「支店経営強化研修」「新任支店長研修」「技術次長研修」にダイバーシティ推進の講義を導入し、女性のキャリア促進、両立支援、働き方改革等の女性活躍の意識啓発を継続しています。

■積水ハウス ウィメンズカレッジ

2022 年 8 期生、9 期生

参加：40 名

管理職候補の女性を全国から選抜し、2014 年より毎年実施しています（2020 年～2022 年度は WEB 開催）。2 年間のカリキュラムで確実に育成し、計画的かつ適正に実力ある女性の管理職登用を実現します。1 年目は、経営視点を養うスキル学習によりマネジメントの本質を学び、2 年目には、職場の課題を解決する経験学習により現場対応力を強化。目標である「管理職に相応しい経営視点・実力の向上」と「管理職資格昇格への意欲・自覚の醸成」の達成を目指しています。

女性活躍推進法に基づく行動計画の目標の一つとして策定している「積水ハウスグループ全体で、女性管理職を 2025 年度までに 310 名以上登用する」という目標の達成に向け継続していきます。

VI

主な取り組み一覧

月	日	取 り 組 み
7月	5日	研究力向上のための外部資金獲得セミナー（オンライン開催）
	27日	第1回南近畿女性研究者支援ネットワーク会議
9月	6日	DV・デートDVと大学での支援体制
	30日	第1回 連携機関連絡会議
10月	21日	研究力向上のための英語スキルアップセミナー（オンライン開催）
	26日	役員向けアンコンシャス・バイアス研修（オンライン開催）（大阪公立大学）
11月	9日	介護支援セミナー（オンライン開催）
	16日	サクヤヒメと語るキラリカフェ（オンライン開催）
	21日	プレゼン力向上セミナー（オンライン開催）
12月	2日	女性研究者研究発表交流会（オンライン開催）
	16日	マネジメントセミナー（オンライン開催）
2月	2日	連携機関連絡会議（臨時）
	16日	第1回 連携機関長会議 第2回 連携機関連絡会議
3月	7日	総括シンポジウム（オンライン開催）
	23日	役員向けアンコンシャス・バイアス研修（オンライン開催）（和歌山大学）

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」
事業報告書 2022（令和 4 年度）
南近畿から広がる新しい未来への扉

発行日 2023年3月発行
発 行 大阪公立大学 女性研究者支援センター(杉本)
連絡先 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
Tel: 06-6605-3661
E-mail: kensi-ocu-support-f@list.osaka-cu.ac.jp

